

都留高PTAだより

令和8年3月1日発行
都留高校PTA
印刷機大月プリント社

学校と家庭をつなぐPTA

PTA会長 本庄 伶



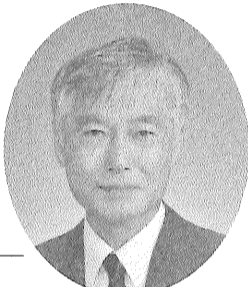
日頃よりPTA活動に対し、ご理解と協力をいただき、ありがとうございます。保護者の皆さま、そして教職員の先生方には、日々の学校生活を支える中で、さまざまな場面において温かくお力添えをいただき、心より感謝申し上げます。

会長という役をお引き受けした当初は、自分にこの役目が務まるのだろうか、不安に感じることがありました。高校のPTAは、小中学校とは異なり、保護者が学校に関わる機会も限られているため、どのような距離感で関わっていくべきなのか、慣れない立場で戸惑うこともありましたが、役員の皆さまをはじめ、多くの方に支えていただきながら、少しずつ進めていくことができました。

PTA会長 本庄 伶

今年度も常任役員会を中心に、学校と情報共有しながらPTAの活動を行ってまいりました。また、関東高P連大会にも参加し、他校の様子やさまざまな取り組みに触れる機会を得ることができました。全国高P連大会については、遠方での開催ということもあり、オンラインでの参加とな

また、若鶴祭では、生徒たちの生き生きとした表情や会場の熱気に触れ、日頃の学校生活の中で育まれていた団結力に感動させられる場面もありました。行事や日々の連絡を通して、普段は見えない学校の様子や、学校全体の雰囲気に触れることができました。保護者として意義のあることだったと感じています。そうしたなかで、家庭において学校の話題が増えるなど小さなコミュニケーションも増えていくのではないかと感じております。



言葉の力

校長 三枝 正人

卒業生の保護者の皆様、お子様のご卒業誠におめでとうございます。保護者の皆様には、日頃から本校の教育活動にご支援・ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。ありがとうございます。

三年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。私は昨年四月に秋山年次主任のもとスタートした皆さんと出会い、二年間一緒に過ごしてきました。その皆さんが、この学び舎での三年間の深い思い出を胸に、新たな道をそれぞれ歩んでいくことに感慨を覚えます。

さて、巷では、生成AIやビッグデータなど耳慣れない言葉が飛び交い、「超スマート社会」の到来が囁かれています。こうした無機質な言葉の一方で、勉強に、部活に、学校行事に果敢に挑戦している皆さんの傍らにも様々な「言葉」があったはず。それは皆さんをサポートしてくれた保護者や先生方、友人などからの「有機的な言葉」です。人は何気ない一言に勇気を得たり、自分を奮い立たせることがあります。先日、ある雑誌に次のような記事がありました。「会社を続けるには人から感心される程度のことをやっているとダメ。人から感動される人間にならなければダメ。どうしたらそういう人間になれるのか、それは自分にとって割に合わないことを笑顔で引き受けていく、そしてそれを続けていくこと」だそうです。この言葉は、割に合わないことでも将来に向けて種を蒔くつもりで取り組み

節目に寄せる思い

三年次部会長 清水 一力

高等学校の全課程を修了し、晴れて卒業される皆さま、改めて御卒業おめでとうございます。思い返せば、小中学校時代は感染症の影響により、様々な制限の中で学校生活を送らざるを得ませんでした。その結果、知らず知らずのうちに受け身になり、何をやるにも一度立ち止まり、ブレーキをかけることが自然と身についてしまったように感じます。

高校に入学し、そうした状況が徐々に落ち着く中で、行事や活動も少しずつ戻り、多

対話の深掘り

二年次部会長 永井 義岳

私たちは、対話を通してどれだけ相手の思いを感じ取れているでしょうか。七月に行われた関東高P連埼玉大会の記念講演では、芥川賞作家・九段理江氏が「対話を終わらせないために」と題し、違いを受け止め語り合い続ける姿勢の大切さを語られました。対話とは結論を急がず、相手の声に耳を傾け続けることが信頼につながるという言葉が印象に残りました。同じ言葉

現代のPTA活動

一年次部会長 渡邊 淳

一年次部会長を拝命し七月に埼玉で開催された高P連関東大会に参加させて頂きました。分科会で他県におけるPTA活動の発表が行われ、PTAの役割や存在意義について改めて考える機会となりました。正直なところ、PTA活動が活発になりすぎて保護者の負担が増えるのは時代に合わないと感じています。一方で子供が通う学校のために何か協力

年次コラ

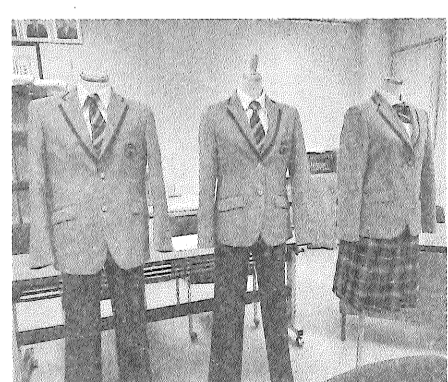
このことを学び、仲間と触れ合う三年間を過ごすことができたのではないのでしょうか。私自身も都留高の卒業生ですが、当時の先生から「風をよむ」という言葉を教わりました。向かい風の時は無理をせず耐え、しかし決して背は向けず、追い風の時には思い切った踏み出し、という意味です。

これからは周囲を気にせず、大いに羽ばたいてほしいと願っています。四月からそれぞれの場所へ活躍する皆さんを、私たち保護者は誇りに思い、心から応援しています。先生方をはじめ、三年間携わってくださった全ての皆さまに感謝申し上げます。

新たなスタート 新制服導入

生徒指導主事 平井 茂樹

本校の制服は男子は学ラン、女子はセーラー服という伝統的なスタイルを採用し、長きにわたり、本校の歴史とともに歩んできました。しかし、昨今の温暖化による環境変化や機能的な問題が様々な聞かれるようになり、ポロシャツの導入等、その都度、対応をしてきました。しかし、生徒の探究的活動の取り組みの中で、制服の意義を問う活動が行われるようになり、生徒会を主体とした評議員会を立ち上げ、現制服に関する様々な意見が寄せられ学校に提案されました。そこで、これらの諸問題や社会全体の問題となっている多様性への変化や価値観の変化に対応するため、新制服の導入を検討することとなりました。



若鶴祭 保護者の感想・エール

第七十回若鶴祭は、六月二十四日、二十五日に開催されました。今年新たに前夜祭が行われ、その様子をライブ配信で視聴することができました。

前夜祭では、開祭式、ダンスが行われました。一日目は合唱部、ブロックの動画発表、軽音部、自由企画、有志発表、会計コンクール。二日目は、吹奏楽部、合唱コンクール、書道パフォーマンス、茶道部と箏曲部、囲碁・将棋部の実演。

生徒一人ひとりが役割を持ち、協力しながら取り組んでいる姿がとても印象的でした。

準備から当日まで、大変だったと思います。どの発表も工夫されており、高校生のパワーのすごさを感じる三日間でした。

若鶴祭を参観された保護者の皆様の声を匿名にて掲載させていただきます。

感想

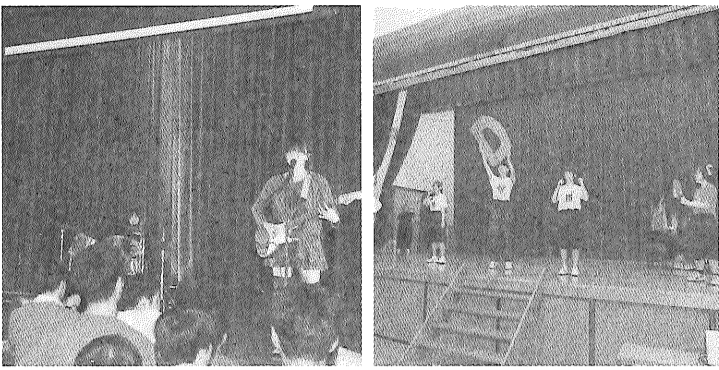
・生徒だけではなく先生も一緒に盛り上がりつついる学園祭は最高です。

・最後の学園祭、二日ともに参加しました。吹奏楽部の迫力と合唱のキレイさに感動しました。

・我々の時より規制緩和されていて羨ましかった(卒業生)

・動画発表がすごく面白かったです。

・合唱が素晴らしい！



意見

・前夜祭のダンス発表は、保護者も実際のステージで観たいです。

・前夜祭の動画配信の音が途切れてしまったのが残念。来年には改善を期待したいです。

エール

・思い出に残る学園祭を通じて、これからの生活に活かしてください。

・来年も期待しています。

・今をたいせつに！一度きりの高校生活をエンジョイ！



・短い準備期間だったが、頑張って準備した姿が素晴らしい。

・みんなキラキラ輝いていて素敵。

・生徒さんが席を譲ってくれて、とても温かい気持ちになりました。

・今年は模擬店やダンスがあつて楽しめました。

・子供の成長を感じられました。

・活があつて元気をもらえました。

ホストファミリー体験記

大きな学びをありがとう
留学生と過ごした一週間

二年保護者 平井典子

息子と同居で構わないとのことだったので、「まあ一週間だし、スリープオーバー的な感じかな」という軽い気持ちで申込みました。

受け入れが暑い時期だったこともあり、とにかく体調が心配で、「頭は痛くない？気持ち悪くない？」と聞いていた気がします。ワシントン州は涼しい地域なので、日本との気候差を案じ、色々な冷却グッズを持たせたのを覚えていました。最終日に「うるさかったでしょう、ごめんね」と伝えたら、「そんなことないよ。心配してくれてありがとう」と言ってくれて、本当にほっとしました。無事に終わられてよかったです。

日常ではたくさん話をしました。アメリカの学校生活や日本との違いなど。「こっちは学校は全然ダイバーシティじゃないでしょう？」と聞いた時は、「本当にそう！」と驚いていました。考え方や未来への視線など、こちらもたくさん学ばせてもらい、とても良い経験になりました。

たった一週間、されど一週間。ずっとアテンドしていた息子はさすがに疲れた様子でしたが、それでも糧になったと思います。他のホストファミリーとも交流を持つという思いがけない経験にも恵まれ、本当に充実した一週間でした。

高校生になったら、いろいろなことにチャレンジしてみたいという希望を胸に入學した四月。そんな折、「ホストファミリー募集」という言葉が目に入りました。我が家にとって大きな挑戦でしたが、またとない経験になるはずだと

そうじの時間

三年次主任 秋山さやか

清掃時間に子ども達と話すことは、年次主任になってからの楽しみの一つです。年次主任の清掃分担場所は伝統的に玄關のようで、竹箒を外を掃いたり、草取りをしたりという作業になります。昨年度は、二年一組、今年度は三年三組の清掃班が一週間ごとに回ってきました。用具を持って横並びに作業をしていると、自然と会話をしてくれます。普段、私に近寄らないような人でも、ついつい話してしまおうのが玄關掃除です。外気のせいにか少し開放的になるのでしょうか。

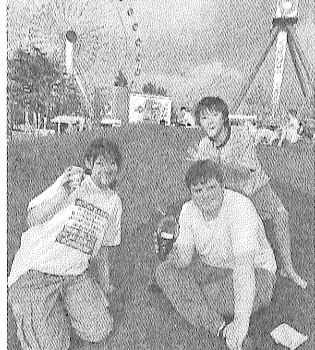
二年生の頃は修学旅行や友達と遊びに行く話。今年度は三年生ということもあり、進

路の話になることもありました。「先生、主任になったんですか？どうですか？」「髪の毛切りましたか？」「前髪短すぎですよ」「私も切ったんですよ」だいたいが私をからかってくれるわけですが、この時間が実に楽しいです。無口な子ももちろんいますが、集中して清掃しながら質問に答えてくれます。筋トレの成果を発揮してくれたり、実は几帳面だということを実証してくれたり、そこからまた話が広がります。今年はお話好きの男子生徒が数名いる班があり、掃除は終わっているのに、玄關外で話し続けていることが頻繁にありました。掃除の技量も上がり、こちら

が指示せずとも気を利かせて上の方まで窓を拭いたり、あちらもやりましょうかと申し出たりと、大人になったことを感じます。

短い時間でも生徒と話しをしていると、私は違う視点が見えたり、私の思考を新しい場所へ連れて行ってくれるように感じるがあります。毎日の十分程度の時間から私自身が元気をもらい、時には決断するきっかけを得ています。

保護者の皆様には様々な学校行事に加え、PTA活動やホームステイの受け入れなどご協力いただき、本当にありがとうございます。今後の卒業生の活躍を陰ながら応援し、在校生との掃除の時間をまた楽しみにしたいと思います。



次の飛翔へ

都留南支部 西村恵美子

陸上部に入学し、走り幅跳び、三段跳びでインターハイや国民スポーツ大会という大きな舞台を経験できたことは我が子にとって大きな財産となりました。全国一位という目標を掲げて挑みましたが、二年時のインターハイと国民スポーツ大会、三年時のインターハイでは思うような結果を残すことができず、悔しい思いや葛藤を抱える時期もありました。しかし、高校最後の全国大会となった国民スポーツ大会では、三段跳びで六位入賞を果たし、最後に笑顔で競技を終えることができました。三年間、日本一を目指して部活動に打ち込み、勉強との両立に励んだ日々は、今後の競技生活や社会に出た後も必ず生きてくると信じています。

ご指導くださった先生方や支えてくれた仲間へ感謝し、大学での新たな挑戦を温かく見守っていききたいと思っております。

編集後記

PTA新聞作りにて和やかな雰囲気の中、都留高校の新聞作りを行い、発行できたことに感謝しております。ありがとうございます。

PTA広報担当一同

